

県ソフトウェア協会平成7年度総会開催

記念講演 大分産業科学技術センター長 木村 錫一 氏

県ソフトウェア協会平成7年度総会が、4月26日午後3時から、ソフトパーク内の富士通大分システムラボラトリ2階AVホールで開催された。司会は後藤事務局長。

御手洗克己協会長が挨拶で、「本総会も第7回目を迎えました。皆様のご協力で、我々の協会は順調な発展を続けており、特に各委員会の活躍は全国的にも注目を浴びております。今後ソフト業界振興への協会の役割は益々大きくなると思う。本日は新しい委員会組織による協会運営についてご討議いただき、更なる飛躍を期待したい」と述べた。

また今回の異動で企画総室長になられた来賓の飯田益彦県商工労働観光部長から、「新しい部署でもマルチメディアの実験推進など、貴協会とは関係があります。先般、円高を踏まえた九州産業の今後の展開という会議があり、製造業は“テクノマザーランド九州”を目指せ、アジアへの視野が特に重要、情報産業は今後の有望産業だ、などの論議になりました。県も各種振興策を推進するので、皆様も県産業の中核に育ててほしい」と挨拶いただいた。

議事に入り、平成6年度活動報告（特に新委員会体制への移行の背景）、同収支決算を承認。平成7年度活動方針、事業計画決定の手順、年会費改訂、収支予算および役員改選などを議決した。

引き続き木村錫一県産業科学技術センター長の記念講演があった。そのあと懇親パーティが大場啓発交流担当理事の挨拶、宇津宮顧問の乾杯に始まり、約一時間和やかに歓談、組織チームのタスクフォースを担当した後藤理事の万歳三唱で閉会した。



飯田県商工労働観光部長よりご祝辞

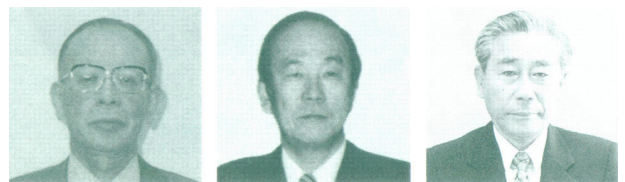


懇親会



木村錫一氏の記念講演

大分県ソフトウェア協会役員



会 長 御手洗 克己
株式会社イーシー
取締役相談役



副会長 田中 莞爾
大分交通株式会社
取締役企画開発部長
(企画担当)



理 事 後藤 昌弘
大銀コンピュータサービス株式会社
代表取締役
(広報担当)



理 事 小野 敬一
ゴードービジネスマシン株式会社
代表取締役
(イベント担当)



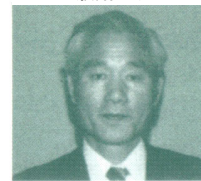
理 事 藤田 勝久
株式会社富士通大分ソフトウェア
ラボラトリ 代表取締役
(技術担当)



理 事 大場 善次郎
新日鉄情報通信システム株式会社
支社長
(研修担当)



理事事務局長 後藤 与一
株式会社イーシー
取締役経理部長
(総務担当)



監 事 若松 舜児
山秀情報システム株式会社
代表取締役



監 事 西 静方
九州東芝エンジニアリング株式会社
顧問



顧 問 秋月 睦男
大分県工業団体連合会
会長



監 事 宇津宮 孝一
大分大学工学部教授
(知能情報システム工学科)



監 事 佐藤 長久
大分県地域経済情報センター
専務理事

平成7年度収入支出予算 (単位 千円)

科 目	平成7年度 予 算 額	平成6年度 決 算 額	増 減
収 入			
会費等収入	2,400	2,050	350
雑 収 入	130	38	92
前年度繰越金	1,141	1,120	21
部 合 計	3,671	3,208	463
支 出			
管 理 費	445	348	97
事 業 費	2,440	1,562	878
予 備 費	200	136	64
部 合 計	3,085	2,046	1,039
翌年度へ繰越 (内基金)	586 (580)	1,162 (580)	△576 (0)

大分県ソフトウェア協会活動方針

1. 新しい局面を迎え協会としては広く関係機関との交流を深め、情報化社会への貢献をめざす
2. 新委員会体制の定着を図ると共に、各委員会の事業力強化につとめる
3. 受益者負担を含む魅力ある事業を推進し、協会の活性化と会員拡大をはかる

総務委員会

委員長 杉原秀次 (㈱インテック大分センター所長)
 副委員長 大塚俊寛 (テックシステム㈱取締役部長)
 副委員長 竹光大造 (㈱富士通大分ソフトウェアラボラトリ課長)
 外委員 3名

1. 事業方針
 当協会の委員会組織が改訂された趣旨を踏まえて、他委員会との連携を図りながら新たな事業活動の定着を図る。また、協会の事業力強化と活性化を図るために会員拡大を推進する。
2. 事業計画
 - (1) 次の協会定例行事を企画・開催する
 4月 通常総会・講演会
 1月 新年会・講演会
 - (2) 会員拡大運動を実施する
 協会の事業力強化、活性化等を図るために、次の要領で会員拡大運動を行う。
 ①各委員会毎に新会員見込先紹介目標を設定し、委員会単位で推進する。
 ②会員勧誘用のPRパンフレット等を準備し、各委員会に配布する。
 - (3) 行政、情報産業団体との交流機会をとらえ積極的な交流を図る。
 - (4) 必要に応じて臨機応変の対応を行う。

企画委員会

委員長 亀井秀郎 (太平工業㈱大分支店課長)
 副委員長 飯田裕治 (㈱オーガス部長)
 副委員長 坂田 明 (九州東芝エンジニアリング㈱主任)
 外委員 5名

1. 事業方針
 各委員会活動の充実と強化及び、会員相互の理解と協力を一層深める事を目的として委員会活動を展開する。
2. 事業計画
 - (1) 行政等への陳情交流、共催事業の実施
 ・行政諸機関との交流及び共催行事の検討
 陳情等に関し会員のニーズを調査する。
 ・行政機関等の情報化計画の調査紹介。
 - (2) 視察研修の実施
 先進地域・先進企業の視察研修の実施。
 - (3) 経営セミナーの実施
 他委員会との連携を図る。

- (4) インターネットの調査・企画
 情報化月間にインターネット体験コーナーを検討する。
- (5) 共同事業の研究
 他県の共同事業・受注の調査。

イベント委員会

委員長 首藤 勇 (コンピュータエンジニアリング㈱取締役部長)
 副委員長 佐藤誠樹 (TNBソフトウェア㈱室次長)
 副委員長 古賀士裕 (㈱日出ハイテック課長)
 外委員 4名

1. 事業方針
 当協会の存在を広くアピールすること。また、会員企業はもとより一般事業所や団体に対しても、会員のビジネスチャンスを上げられるような事業を行う。サウンドコンテンツを実施することによって協会内外へのイメージアップをはかる。
2. 事業計画
 - (1) サウンドコンテンツ (第4回)
 マスコミとのタイアップ等、企画、設営、集客に工夫する。
 開催日時は情報化月間を考えている。
 - (2) 展示会
 サウンドコンテンツとの相乗効果をねらい、会員企業のビジネスチャンスの場として展示会を開催する。

技術委員会

委員長 池田治郎 (三井造船システム技研㈱部長)
 副委員長 神代重弘 (サンキューコンピュータサービス西日本㈱ 取締役本部長)
 副委員長 佐田幸己 (㈱昭和電工コンピュータサービス副主席)

1. 事業方針
 事業力強化を強く念頭におきながら、以下の諸活動を企画・実施する。
 (1) 最新技術動向に関する知識向上
 (2) 情報処理業務に関する知識向上
 (3) 会員各社保有の技術情報の有効活用
2. 事業計画
 - (1) 技術講演会開催について
 業界の最新技術動向について、産学官より講師を招き、講演会を開催する。
 (平成7年10月の情報月間に開催予定)

- (2) 勉強会開催について
 会員が抱える共通の問題や課題について勉強会を開催する。内容はクライアント/サーバー・マルチメディアが中心。

研修委員会


委員長 野村勲治 (㈱アトムス事務器部長)
 副委員長 丸井 彰 (鶴崎海陸運輸㈱課長)
 外委員 6名

1. 事業方針
 - (1) 研修事業の在り方については協会会員企業の要望、必要性等をヒアリングし具体的事業計画に反映して行く。
 - (2) 事業力強化の方針に基づく計画とする。
 - (3) 委員会活動の活性化を図るため、行政他との連携、他委員会との合議を積極的に進め、委員会活動に取り入れていく。
2. 事業計画
 当委員会は新設の委員会でもあり、具体的事業は協会会員企業の要望に沿って設定する。従って現時点では事業の概念を示すにとどめる。
 (1) 会員企業の技術者向けに、専門的技術に関する研修会を実施する。
 (2) 協会企業トップ層の参考となる、経営講座等を企画実施する。
 (3) その他会員企業の要望に応じ、必要な事業を企画実施する。

広報委員会

委員長 中西憲一 (㈱キハインダストリー部長代理)
 副委員長 上田泰延 (九州電子計算機専門学校校長)
 副委員長 佐藤幸雄 (総合技術工学院部長)
 外委員 4名

1. 事業方針
 協会活動の内外へのPR、リクルート情報活動等を主体にした事業を展開し、当協会の活性化を図る。
2. 事業計画
 下記の広報活動
 (1) 協会報の発行を行なう。
 年間3回を原則とする。
 OSAニュースで会員募集をPRする。
 (2) 社外広報
 協会案内の作成につき検討する。
 協会のPRを目的として報道関係等への情報提供に努める。
 (3) リクルート情報活動 (新卒、Uターン対策)
 ① 行政諸機関へOSAニュースを送付し、Uターン希望者や学生に配布を依頼。
 ② 必要に応じて協会報を利用した会員企業の紹介などを行う。

<p>■設置学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報システム科 2年制 ●情報ビジネス科 2年制 (医療事務・医療秘書・税理士) ●土木工学科 2年制 (CADコース)就職率100% <p>英語・中国語・韓国語会話 <ホテル実務・海外研修・旅行業務></p> <p>国際ビジネス科 (国際観光コース)</p> <p>情報ビジネス科 (医療事務・簿記・経理コース・医療秘書コース・税理士コース)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●国際ビジネス科 2年制 (国際観光コース) ●短期講座 ●奨学金制度 ISP 育英奨学生制度 	<p>4年生大学編入の道あり</p> <p>近畿大学短期大学部通信教育部商経科</p>  <p>適産省委嘱校・建設省認定校 INTERNATIONAL SOFTWARE PROFESSIONAL SCHOOL 大分市末広町2-3-18 (JR大分駅より徒歩3分) ☎(0975)33-0733</p> <p>フリーダイヤル ☎0120-17-0733</p>
--	---	--

7 年度総会記念講演

日 時：平成7年4月26日16時
 場 所：富士通大分システムラボラトリ
 講 師：大分県産業科学技術センター長
 木村 錫一 氏
 テーマ：超電導に関する技術動向について

講師のプロフィール

昭和15年生、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了後電子技術総合研究所入所、同所極限技術部長を経て大分県産業科学技術センターに招聘された。今年6月電子技術総合研究所に復帰される予定。超電導の権威。



1. 大分に赴任して

大分で改めて自然の素晴らしさを感じた。現在の技術開発は太古から自然が持っている力を再現しようとしているのに過ぎない。鶴は何故ヒマラヤを飛越える事が出来るのか、鯨は何故深々海まで短時間で潜水が可能か。自然は大変大きな技術を持っている。

2. 大分での技術開発上留意すべきこと

円高による産業の空洞化は技術者不在を招く危険があり、この事態を避ける力は中小企業にありそう。県産業科学技術センターの設立目的は中小企業の技術開発を支援する事にある。技術は常に情報の受発信によって競争にさらし、地域に適合した改良を加えるべきであろう。特にソフト面の改良が重要である。

3. 超電導技術の歴史

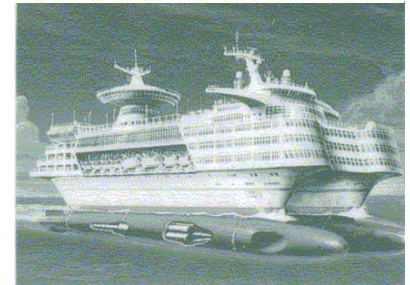
超電導現象は1911年に極低温技術の開発過程で発見された。極低温で電気抵抗がゼロとなり、完全反磁性状態となる。この状態では永久に電流が流れ、強力な磁石が得られる。 -269°C で出現したこの現象をより高温域で発現する物質の研究が進められ、現在では酸化物を使用し -90°C 前後で発現している。更に、現在はより強力な磁力を得る物質とその形状開発が進められている。

4. 超電導現象の活用（主要例）

- ①電気抵抗0特性の活用 電力貯蔵、送電
- ②微弱磁界との相互作用の活用 MRI、心電図、コンピュータ
- ③精密磁界の活用 電子顕微鏡
- ④高磁界の活用 磁気浮上搬送設備 船舶高速推進、MHD発電機、電力機器
(啓発交流委員会)



身体の磁気をCGで映像化するMRI



海水に電流を流し磁力で推進する船舶

平成6年度第2回視察研修実施 シーガイヤ 宇宙情報センター 食品配送センター

平成6年度県外視察研修を2月21・22日に実施した。今回の視察先はシーガイヤ、東海大学宇宙情報センターおよび三友食品(株)南流通センターで各施設とも大変参考になった。

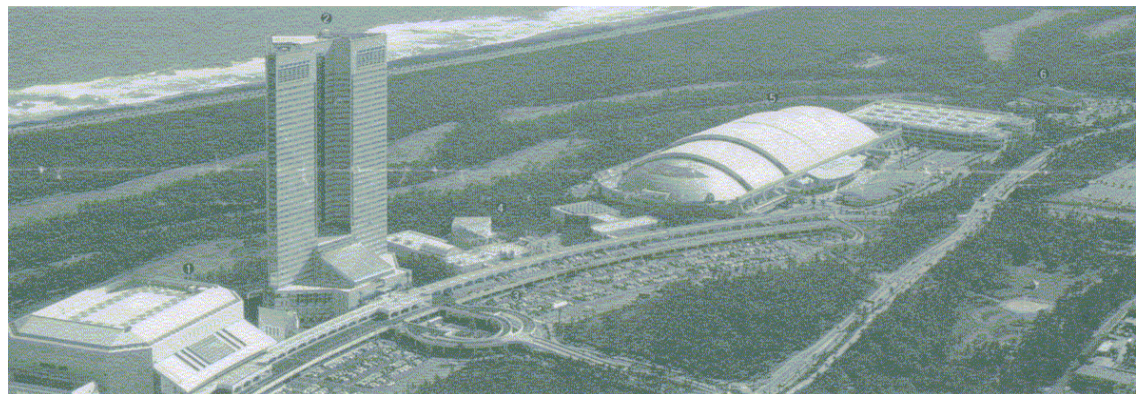
シーガイヤ（宮崎市山崎町）

まずホテルオーシャン45の43階展望フロア（地上141m）から全景を展望した。一ツ葉海岸の広大な松林と日向灘の長大な海岸線の景色は実にすばらしく、この景観を活かしたシーガイヤの構想に感心させられた。

オーシャンドームでは、造波の仕組みの説明を受けた。常時稼働の真空ポンプでチャンパー内に海水を吸い上げ、バタ弁を開放して一気に海水を落下させて造波するという単純な機構ではあるが、開放タイミングをコンピュータ制御することにより目的に応じた200余種の波を発生させている。造波口の形状などにノウハウがあるそうで、設計時のご苦労が忍ばれた。



オーシャンドーム



宮崎・一ツ葉海岸10kmにわたるシーガイヤ

東海大学宇宙情報センター

見渡す限りの畑の中に、大型パラボラアンテナが立ち並んでいる。ここでは地球観測衛星、通信衛星および放送衛星などの多数の人工衛星からの情報を受信・記録し、収集したデータを同大学筑波センターで解析して自然環境の調査等に役立てている。

熊本飛行場の直近で電波管制が行き届いていること、日本の西端にあって東南アジアの情報も受信できることなどの理由でこの地に建設されたそうである。わずか3名の要員で運用されており、ここまで自動化されているのは世界でも例がないとのことで、様々な興味深い機器を見せていただいた。



東海大学宇宙情報センターでの一行

三友食品(株)九州支社南流通センター

（熊本県阿蘇郡西原村）

ここでは食品会社からケースで納入された食品を、注文に従って小分けし、コンビニエンスストアや小売店に配送している。EOSで集信した注文データが、自動ピッキングシステムへの入力となる。

3000種類近い食品を得意先別に棚から取り出し、配送ケースに間違いなく詰めていくのは大変な作業である。このセンターでは、ローコストの表示・入力端末、傾斜棚、ローラーテーブルなどの構成機器と人間の動きとを実にうまく組み合わせたシステムで、素早く、間違いのない小分け作業を行っていた。

(視察研修委員会)



三友食品南流通センターの自動ピッキング

技術事例発表会

勉強会「MS Windowsの動向」開催

技術交流委員会は、平成7年2月16日(木)「MS WindowsNT3.5及びWindows95の動向」と題して、富士通大分システムラボラトリ2階に於いて、マイクロソフト株式会社箕浦福岡営業所長、及び同社御代氏による技術勉強会を開催しました。箕浦福岡営業所長には平成5年10月27日の第5回OSA技術交流会にて「Windowsの戦略」と題した基調講演を行っていただき、その項目の中に新製品WindowsNTの紹介がありましたが、今回はWindowsNT発表後の動向について銀行、証券会社等の事例を参考にした説明と今後のWindowsNTの利用についての講演を行っていただきました。

また、今回は本年度秋に発表される予定のWindows95を、御代氏によりマシンを使って

紹介していただきました。

以前より開発コード「シカゴ」で話題になっていた新OSが正式名Windows95として発表されたばかりの時でしたので、参加者は、大変な興味の持ちようでした。

特に、新OSになり大幅に変わるメニュー画面や、簡素化された項目選択、ソフトのインストールの簡素化、周辺機器の増設が自動化されたPlug And Playなど今まで手間取って



広い会場を埋め尽した参加者

いた作業を全てOSが処理してしまう機能の紹介がありました。

今回、Windows95の紹介ということで、前回にも増し160名の参加人数があり、講演時間も当初の予定を1時間近くオーバーし、講演後も両氏に個別に質問する場面もみられる盛況ぶりでした。(技術交流委員会)

新情報処理技術者試験について

情報処理技術者試験制度の改革後、初めての試験が平成6年度秋期に実施された。

第二種については、午前の選択科目の廃止、午後の言語寄りの問題からシステム設計寄りの問題へと変わった。特に、システム設計についてはよく理解していないと合格が難しくなってきたものと思われる。

システムアドミニストレータ試験は、最近の社会的ニーズを反映した利用者(EUC)を対象とした内容で、問題も妥当なものであったと思われる。しかし、受験者の中には一種・二種取得者も多く合格ラインが高くなり、利用者にとっては、高得点を取らないと合格が難しかったようだ。(広報人材委員会)

県ソフトウェア協会会員募集中

一勧誘、紹介を会員の方へお願い

委員会組織が本年度より改められ、当協会が新たに再スタートするときです。組織充実、会員拡大のために「新会員の加入を勧誘」していただくようお願いいたします。

当協会には、ソフト開発を事業としていない企業でも入会できます。県内に事業所をもち、当協会の目的に賛同いただいた企業(個人・団体含む)であれば入会資格があります。

入会申込書は協会事務局にあります。申込書ももらい、理事会で承認されたら、即会員となります。

各委員会事務局に本誌のバックナンバーを置いていますので、勧誘時にご利用ください。

参考1

	入会金	年会費
正会員	10,000円	50,000円
賛助会員	10,000円	25,000円 (2口を希望)

参考2 当協会の目的

大分県におけるソフトウェア関連技術の交流を促進し、コンピュータ利用技術(ソフトウェア、システム化技術)の向上及び発展を促し、ソフトウェア産業の振興を図ることを目的とする。(協会事務局)

編集後記

- タスクフォースチームの答申に基づき、新しい委員会の体制に生まれ変わりました。4月26日の総会のあと、5月中に新委員会のメンバー編成、正副委員長の選出、各委員会事業計画の策定へと進め、6月7日の理事・委員長合同会議での事業計画決定という手順で再スタートします。
- 全国のソフトウェア協会の7割が法人化していく流れの中で、当協会も将来の法人化を展望して、公益法人にふさわしい事業規模に達するよう、委員会活動を充実していくことがこれからの課題です。会員が喜んで受益者負担できるような、魅力ある事業を開発していきましょう。新しい委員会での皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。
- 会員の皆様に役立ち、歓迎される新委員会体制が一日も早く定着するよう祈念します。(協会事務局)

OSA News

1995.6.12発行

発行:大分県ソフトウェア協会
会長 御手洗克己

編集:広報委員会

事務局 大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL(0975)37-5918 FAX(0975)34-4545

印刷:佐伯印刷株式会社



時代の最先端に未来の君がいる。

設置学科

- 情報テクノロジー学科
プランナーコース
テクニカルコース
グラフィカルコース
マルチメディアコース
アカウントニングコース
- 情報クリエイティブレイ学科
医療秘書コース
OA秘書コース
- インテリアコーディネイト学科
建築・設計コース
インテリアコース
- 通信ネットワーク学科 3年制
- 通信ネットワーク学科 2年制

総合技術工学院

〒870 大分市東春日町51番3(ソフトパーク内)
☎0975-37-2471代

大学からマルチメディア、医療まで・・・情報の総合学園 KCS。

設置コース

- 大学コース 4年制(男女)
北海道情報大学とKCSに同時入学。双方向型衛星教育システム(PINE-NET)による大学教授のライブ授業で、国家試験資格を手に大学を卒業。
- システムエンジニアコース
●マルチメディアデザインコース 3年制(男女)
IE、CASE、UNIXやC言語およびマルチメディアツール等の最新技術を修得したスペシャリストを育成。

- システムデザインコース
●マルチメディア・CADコース
●ビジネススタッフコース
●メディカルスタッフコース 2年制(男女)
ビジネスソフトを最大限に利用する知識やカスタマイズ技術。EUC時代に即応できる人材を育成。

通産省 KCS を認定!

通産省は平成6年12月5日付で、情報化人材育成学科としてKCS大分校を認定。

KCS 九州電子計算機専門学校大分校
北海道情報大学 大分教育センター
〒870 大分市東春日町17番19号 TEL 0975(37)3911